

Asia Indicators

発表日: 2023 年 1 月 6 日 (金)

経済活動の正常化に伴いインフレが続く展開 (Asia Weekly(1/3~1/6))

～フィリピンのインフレ率は 14 年強ぶりの水準に加速、頭打ちしてきたタイのインフレ率も再加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

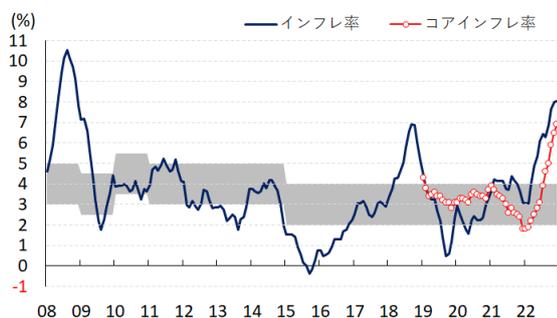
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/4(水)	(香港) 11 月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲5.3%	--	+2.5%
1/5(木)	(フィリピン) 12 月消費者物価(前年比)	+8.1%	+8.2%	+8.0%
	(タイ) 12 月消費者物価(前年比)	+5.9%	+5.9%	+5.5%
	(シンガポール) 11 月小売売上高(前年比)	+6.2%	--	+10.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[フィリピン]～生活必需品のみならず、幅広く財、サービスの両面でインフレ圧力が強まる展開が続いている～

5日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+8.1%となり、前月(同+8.0%)から一段と加速して2008年11月以来となる高い伸びとなった。前月比は+0.34%と前月(同+0.93%)からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の高止まりの動きを反映してエネルギー価格の上昇が続いているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇圧力がくすぶるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+6.9%となり、前月(同+6.5%)から加速して現行基準で最も高い伸びとなっている。前月比も+0.34%と前月(同+0.77%)からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ペソ安の動きを反映した輸入物価の押し上げが幅広く財価格の上昇に繋がっているほか、経済活動の正常化の動きを受けてサービス物価も上昇の動きが続くなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図1 PH インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～エネルギー価格に一服感が出る一方、財、サービスなど幅広くインフレ圧力が強まる展開は変わらず～

5日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+5.9%となり、前月(同+5.5%)から伸びが加速

している。ただし、前月比は▲0.06%と前月（同▲0.13%）から2ヶ月連続で下落しており、穀物をはじめとする食料品価格は上昇が続いている一方、原油の国際価格の上振れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格が落ち着きを取り戻していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.23%と前月（同+3.22%）からわずかに伸びが加速している。前月比も+0.06%と前月（同+0.16%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の下落を受けて輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、国際金融市場における通貨バツ安に伴う輸入物価の押し上げを受けて幅広く財価格が上昇しているほか、経済活動の正常化の動きが進んでいることを反映してサービス物価も上昇基調が続くなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

図2 TH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～雇用回復の遅れの一方でインフレ圧力がぐすぶり、家計消費を巡る状況は厳しさを増す展開～

5日に発表された11月の小売売上高は前年同月比+6.2%となり、前月（同+10.3%）から伸びが鈍化している。前月比も▲3.71%と前月（同+0.07%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少に転じるなど頭打ちの動きを強めている。なお、同国では月ごとに自動車販売が上下に大きく振れやすく、小売売上高全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+2.00%と前月（同▲5.33%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている。よって、自動車を除いたベースでは前月比▲4.34%と前月（同+0.71%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど全体的に家計消費は頭打ちの動きを強めている。食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要は底堅い動きをみせているものの、宝飾品をはじめとする高額品や余暇需要などが下振れしているほか、衣料品をはじめとする日用品に対する需要も頭打ちの様相を強めており、雇用の回復が遅れる一方で生活必需品を中心とするインフレが続くなかで家計消費を取り巻く環境は厳しさを増している。

図3 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～雇用回復の遅れを受けて、高額品のみならず生活必需品や日用品など幅広く需要が弱含む展開～

4日に発表された11月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比▲5.3%となり、前月(同+2.5%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲9.54%と前月(同+7.24%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。自動車や家具など一部の耐久消費財に対する需要に底打ち感が出る動きがみられる一方、宝飾品などの高額品に対する需要は弱含む動きが続いているほか、食料品や燃料などの生活必需品に対する需要のみならず、衣類などをはじめとする日用品に対する需要も下振れしており、雇用の回復が道半ばの状況が続いていることに加え、中国本土における強力な感染対策維持の動きなども家計消費の足かせとなっている。

図4 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。